令和6年度第1回自治体等FM連絡会議大阪府地域会の開催報告について

大阪府地域会代表幹事（高槻市総合戦略部アセットマネジメント推進室）小川　公子

去る令和6年7月26日、令和6年度第1回自治体等FM連絡会議大阪府地域会を開催しました。

今回は、岩手県紫波郡紫波町より企画総務部長の鎌田千市氏をお迎えし、「公民連携によるまちづくり　～オガールから7つの空き校舎活用へ～」と題して、公民連携で進めてこられた実績についてご講演いただきました。オガールについては、これまでも様々なメディアや書籍で紹介されており、公民連携やFMに関わると見聞きする代表的なプロジェクトの一つですが、直接お話を伺う貴重な機会となりました。

ご講演では、①オガールプロジェクトについて、②リノベーションまちづくりについて、③7つの小学校跡地活用について具体的な取組をお教えいただきました。

オガールプロジェクトでは、町としての将来ビジョンを明確にし、「民間活力の誘導を委ねる覚悟」を決め、町長を筆頭に何度も説明を繰り返されて住民理解を得て進められたことをお話くださいました。

公民連携で進めるにあたって、民間が進めようとする尖った開発に、根拠のない思い付きの助言は不要であるというご説明があり、委ねる覚悟とはどういったことかを具体的にお示しいただきました。

また、「使うプロは市民。市民が何をしたいかを一緒に考える。」というご説明に、改めて誰のために事業をするのかということを認識しました。

オガールでは、「公共目的の達成」と「民間の経済開発」の両立のため、PPP手法としても様々な手法で取り組まれており、プロセスとしての行政手続きや市民参加も丁寧にされていることをお教えいだきました。最後にオガールは永遠に未完成であるというご説明の中で、モノが出来上がっても民間側は融資の返済があるため終わっていないという言葉を重く受け止めました。

続いてリノベーションまちづくりでは、行政の持つ土地だけでなく、民間の持つ土地も同時に仕掛けて公民連携によるまちづくりを推進していることをご説明いただきました。リノベーション・スクールの開催や事業化講座、しわ起業塾など、民間主導の小さなリノベーションを支援しながら日詰商店街地区でまちづくりを進められる一方、旧役場庁舎跡地の活用は旧庁舎というアイデンティティ・レガシーや市民の思い入れを大事に進められています。単なる土地活用ではなく、住民の資産としてどのように活用するか取り組まれている例であり、行政の姿勢として参考になりました。

3つめの小学校跡地の活用については、FMに関わる担当としては非常に興味のある話題で、ここでもまちづくりの将来像の実現向けて、「産業の振興」と「人材の育成」を基本方針として定められています。特に人材育成については、新しい学校の役割として未来を担う人材を育成するとされており、学校の跡地活用として納得感のある方針を定めていらっしゃると感じました。7つもの学校跡地についての事例をご説明いただき、立て続けに事業化されていることに驚きました。

最後に、まちづくりを進めていく上でのご苦労などもお話いただきました。「人が嫌がるもの（仕事）こそ取りに行く」という言葉が印象的であったほか、楽しんで取り組まれていることや、それぞれに関わっていらっしゃる関係者を非常に大事に思われていることが伝わってきたご講義でした。

後半は、グループに分かれて「廃校利用」「学校以外の跡地利用」をテーマに、情報交換の時間といたしました。参加自治体での事例について議論したり、お互いの取組を紹介しあったほか、土地利用等に至る計画や庁内検討の状況など、広く議論をしたグループもありました。少人数での情報交換は、顔の見える距離であることから、本音トークができることもあり、それぞれで活発な情報交換ができました。

アンケートでは鎌田さんのご講義や後半のグループワークについて「大変よかった」「まあまあ良かった」と評価をいただけ、幹事一同ほっとしているところです。

FMの取組は、自治体によって取り組む内容が違ってきていますが、具体的な事例を聞かせていただいたり、リアルに情報交換し、顔の見える関係を作れるという点で会員相互の連携に寄与していけるよう引き続き地域会を開催していければと思います。

最後になりますが、ご講演いただいた紫波町企画総務部長の鎌田様、ご参加いただいた方々、ご支援いただいた（一財）建築保全センターの関係者の方々にお礼申し上げます。